

研究区分	教員特別研究推進（教育推進）
------	----------------

研 究 テーマ	スコットランド言語法案が地域言語の使用状況と学校教育に与える影響				
研究組織	代 表 者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	米山 優子
	研究協力者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	米山 優子

講演題目
スコットランド言語法案が地域言語の使用状況と学校教育に与える影響
研究の目的、成果及び今後の展望
1. 目的 本研究は、スコットランド言語法がスコットランドの地域言語であるスコットランド・ゲール語とスコッツ語の社会的地位や扱いにどのような違いをもたらすのか分析するものである。スコットランド言語法案は、公共団体による両言語への支持を強化するために 2023 年からスコットランド議会で審議されてきた。2025 年 7 月に可決したスコットランド言語法は、スコットランド・ゲール語を公用語と定めた 2005 年のスコットランド・ゲール語法に続いて、スコッツ語も公用語として認めた。同法では、両言語を教授言語として学校教育に導入することが重視されている。2022 年の国勢調査結果から得られた住民の両言語の運用能力や使用状況を英語の併用と関連づけ、スコットランドの地域言語の実情について考察する。 2. 成果 2025 年 9 月に第 4 回「先住民言語およびマイノリティ化された言語の再活性化に関する国際会議」（京都大学）において「スコットランドの言語政策の課題—新しい言語法の制定に向けて」と題する研究発表を行った。本発表では、新しいスコットランド言語法の必要性について、ゲール語法制定の背景やゲール語法との比較を中心に分析した結果を述べた。ゲール語法によりゲール語能力をもつ住民の増加や、ゲール語の使用とゲール語文化に触れる機会の奨励が進められてきた一方で、世代間の継承は十分に行われているとは言えない。家庭内に留まらず、地域社会全体で世代を超えて地域言語を継承していくことを今後の言語政策の課題として挙げた。 また、2025 年 9 月に日本スコットランド学会 2025 年度大会（北九州市立文学館）において「エドウィン・ミュアのバラッド詩」と題する研究発表を行った。本発表では、スコッツ語のバラッド詩の伝統を高く評価したスコットランドの詩人の代表的な作品について、その技巧と内容の特徴を述べた。ヨーロッパを遍歴したミュアの詩は、スコットランド住民の複雑な言語的アイデンティティーを考えるための教材として取り上げられることも多い。直近の社会調査の結果から、地域言語に対するスコットランド住民の見解の傾向を紹介し、ミュアが生きた 20 世紀の状況との相違を指摘した。 以上の一部の内容については、本学部の開講科目「英米の社会と文化 IA/IB」「比較文化入門 II」「比較文化へのアプローチ」等で講義した。 3. 今後の展望 スコットランド言語法の制定以降、ゲール語法を補完する規程によってゲール語とスコッツ語の公用語としての認知や地域言語としての再活性化が加速していくと予想される。ゲール語とスコッツ語の学校教育への導入方法や授業形態の違い等を継続的に考察する。